

(翔陽高等) 学校 平成 2 7 年度学校評価表

1 学校教育目標
心豊かで、活力にあふれ、かつ礼節をわきまえた個性ある生徒を育成し、豊かな教養・専門的知識・技術を高めて、地域社会が求めている人材の育成を目指す。

2 本年度の重点目標
(1) 総合学科だからできる幅の広い教育活動を通して、地域に貢献できる人材を育成する。 (2) 全ての教育活動を通して規範意識を高め、自信と誇りを持った生徒を育成する。 (3) 進路目標達成のために、キャリア教育を推進し、望ましい職業観・勤労観を育成する。 (4) 人権尊重の精神を養い、互いの個性を尊重し、自他を大切にする生徒を育成する。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	総合学科の特色づくり	総合学科の工夫・改善	○将来に向けた総合学科のあり方の再検討	○総合学科研修会を年 2 回実施	B	○科目選択職員研修 (1 回) を行った。 ○総合学科研修 [大分県立日田三隈高等学校「30 歳のレポート発表会」報告] ○全国の動向を踏まえながら、総合学科に関する研修を行い、積極的に工夫改善していく。
		総合学科の PR	○定期的な情報の発信	○HP・広報誌の活用とブログの随時更新 ○ICT・広報関係の分掌新設		
	キャリア教育の推進	望ましい職業観・勤労観の育成	○進路意識の啓発	○社会人講師による講演会の実施 年 7 回の「外部講師招聘事業」を実施	○講師に建築技能士 宮川工務店 宮川博雄様を招いた木造軸組工法の授業、華道永村和美様他を招いたフラワーアレンジメントの授業 (1 回)、華道・茶道実習 (全 5 回)、地域包括支援センター及びつつじ山荘より講師を招いた認知症の予防とかかわり方の授業 (1 回)、熊本県環境生活部県民生活局くらしの安全推進課 課長 開田哲生氏他を招いた「食品表示出前講座」を実施。今後も専門性に富んだ外部講師招聘授業を行っていく。	B

			○将来を見据えた適切な科目選択	○系列ガイダンスを実施	B	○学校行事「平成27年度1年次系列説明会」を行った。1年次系列説明会は、本年度からの取組となる。午前に系列の見学や体験等を行い、午後に一斉ガイダンスを行った。今後は、系列主任説明の時間確保等も行いたい。
	キャリア教育のシステム化		○科目「産業社会と人間」の再点検及び活性化	○体験型学習の充実 自らの進路選択との関係性を明確にした判別プロジェクトにする	B	○授業「産業社会と人間」において、本年度から行った「系列説明会」の事前日程との調整をしながら、班別プロジェクトを実施した。今後も「産業社会と人間」における時間確保(科目選択と並行する中で)が課題である。
			○インターンシップの活性化	○全職員の協力による事前事後指導の充実 ○「キャリアアップ報告書」を2年次前期までに完成	B	○後期で実施する2年次「総合的な学習の時間」の中で行う「キャリアアップ報告書」において1年次科目「産業社会と人間」から続けてきたキャリア教育の総まとめを行う。
			○デュアルシステム、総合研究の活性化	○成果発表会の開催 「総合的な学習の時間」の発表会を全系列で実施(11月または2月)	B	○本年度からデュアルシステム実習に、新たに保育関連事業所及び福祉関連事業所における訓練(生活デザイン系列による)を取り入れた。1月には、これら新しいデュアルシステムの発表以下、各系列内で盛んに系列内発表会が行われた。 ○2月には、各系列代表班による「総合的な学習の時間発表会」を実施する。
	開かれた学校づくり	学校評価の着実な実施	○評価資料の収集と課題の明確化	○生徒・保護者へのアンケート実施(11月末まで)、回収率95%以上にする ○教育懇話会委員による学校関係者評価を2回実施	B	○11月に学校評価アンケートを実施した。回収率は99.0%であった。記述においても、貴重な御意見をいただくことができた。今後の課題として取り組みたい。
			○目標や評価結果の公表	○広報誌「翼にのせて」とHPに掲載	B	○今年度の評価結果についてはHP及び次年度保護者総会で公表し、次年度の取組に活かしていく。 ○HPのホーム画面に「学校評価」の見出しを新設し、前年度の結果と今年度の評価計画を公表した上での取組となるようにした。
学力向上	学力の向上	アクティブラーニング型授業の推進	○公開授業校内参加率90% ○生徒による授業評価の各項目平均3.0	○授業見学用紙の書式改善 ○授業改善のヒントを配布	C	○公開授業参加率は第1回68.6%、第2回50.7%と不調であった。授業評価は宿題の項目だけが低い評価であった。 ○AL型授業の推進に向けて、次年度は学校全体の方向性を示した取組にする。

		学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習 2 時間 ○成績不振者前年度 2 割減 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活リズム確認票の作成 ○個人面談の実施 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○前期成績を昨年度と比較すると、欠点保持者は増加している。3 科目以上の生徒とは個人面談を行い科目数を減らすことはできているが、全体的には厳しい。家庭学習については徐々にではあるが増加傾向にある。
		読書習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○年間一人平均貸出数 10 冊程度の読書 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝読書の定着 ○読みやすい本、専門書の購入、授業での活用がしやすい環境を作る ○読書週間の設定 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○朝読書は全体的に定着が見られるが、読書以外の事をしている生徒も少し見受けられる。 ○授業で活用できる資料を重点的に購入した。また、参考図書コーナーをリニューアルし設置した。 ○読書週間を設け実施した。読書週間以外にも特集を設け、生徒の興味関心をひく選書や環境整備に力を入れている。 ○図書室に足を運ぶ生徒数は確実に増加しているが、貸し出しまで至らないケースも多く、貸し出し数の増加に繋がっていない。
進路指導	進路保障	進路目標の達成	<ul style="list-style-type: none"> ○進路目標の 100% 達成 ○国公立大 3 名、公務員 20 名以上、民間企業一次合格率 80% 以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員面接 2 回実施 ○専門系列と 2・3 年次との進路会議 ○模擬面接の充実 ○作文指導の充実 ○進学係による面談の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○進路目標 100%、民間企業 1 次合格率 79% 公務員 20 名合格は、目標達成。しかし、国公立大学推薦受験が 3 名で合格者を出すことができなかったことは反省すべき課題。 ○全職員面接は 2 回、主任主事面接も行うことができ、回数としては 3 回実施している。 ○専門系列との会議を校内選考会時に入れている。対外的な農業・工業・商業の進路合宿や農業・商業からは 2 年次海外研修ができた。 ○3 年次小論文・作文指導は充実できた。
		早期離職の防止	<ul style="list-style-type: none"> ○適応指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアサポーターとの面談充実 (2 回) により、ミスマッチ無い受験 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○全生徒、できるだけ夏休みの応募前に職場見学をさせた。また、全生徒、保護者面談、進路部面談を行った。
		県外企業開拓の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○中京方面・関東方面の製造業訪問 	<ul style="list-style-type: none"> ○年次・系列・事務部で、5 月と 2 月の実施を考え、生徒の就職先保障に資する 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○企業訪問の予算を確保し、生徒の行った企業、生徒が受験しそうな企業について、ハードではあったが企業訪問を行った。 ○コンソーシアム熊本や九州地区大学説明会に参加させた。
		上級学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○アドミッションポリシー及び生徒の研究テーマ調査 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンソーシアム熊本や大学主催のオープンキャンパスへの参加 	A	
		基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○教務部との連携 (目標を設定した効率的な学習) 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力未定着生徒に対する夏期学習会での指導 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○全生徒対象夏季学習会については、効果・効率が上がらないとの教科からの話があり、夏季学習会は廃止し、基礎学力の向上のさせ方は見直しを図ることで現在検討中。

生徒指導	生活指導	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○整容指導の徹底 ○特別指導生徒数、前年度（42人）比20%減 ○転退学者数全体1.5%以下 ○5S活動（特に躰）の推進 ○マナーの向上 ○盗難ゼロの学校 ○2重ロック率100% 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の共通理解と生徒・保護者への周知徹底 ○月1回の容儀検査の実施 ○段階的指導の推進 ○教育相談との関わり ○登校指導（あいさつ、容儀、時間厳守）及び巡回指導 ○交通委員会（生徒、職員）による啓発と点検及び事後指導 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○整容指導について、校内で着崩している生徒が減少したように感じられる。しかし、校外での着崩しはいまだに目立っている。 ○1月14日現在で特別指導生徒人数は26人。前年度（33人）と比較して、20%減に到達している。 ○転退学者数は7人（0.8%）。 ○2重ロックは1月14日に100%を達成。 ○盗難は1件発生。 ○数値目標は達成できているものの、挨拶やマナーの面、考え方で幼さの残る生徒が多い。また校外での服装等の指導が今後の課題となる。
		交通安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりが、交通安全を意識した行動を実践して生徒が第一当事者の事故ゼロを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全講話、通学方法別集会 ○生徒が主体となった単車通学生への実技講習及び安全指導 ○自転車通学生への実技講習及び安全指導 ○交通関係LHR 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○自転車事故（8件）および原付通学生（3件）の事故も減少。しかし、原付通学生にも第一当事者の事故が発生しており、今後、更なる交通安全意識の向上が求められる。また、自転車通学生の安全指導も課題とされる。
	ボランティア活動の推進	心豊かな生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○地域行事への参加、社会福祉施設訪問、他校の学校行事への協力 ○翔陽「絆プロジェクト」の遂行 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア委員会活動の活性化 ○タイムリーな活動紹介と募集 ○東北大震災被災地への継続的支援活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○地域行事をはじめ、今年度も積極的にボランティアへの参加があった。 ○「絆プロジェクト」も継続的に支援活動を行うことができた。
人権教育の推進	人権意識の向上	確かな人権感覚の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○人権問題についての正しい理解と認識を深める ○転退学者数減少を念頭においた進路保障の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な職員研修の実施 ○校外研修への参加 ○生徒人権集会、人権教育LHR、人権教育講演会の実施 ○相談室だより発行による啓発 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○解放高校生の訴えを含めた職員研修を6回行い、部落差別の現実を知る機会となった。 ○1年次生に車いす利用や義足の生徒がいるので、校内人権集会は2回とも障がい者差別について企画し、思いを共有することができた。 ○相談室だよりは、内容の充実を図りたい。
	教育相談	教育相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒支援体制の確立と強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○学年、保護者等他の職員との情報の共有化 ○スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携 ○特別支援個人計画策定 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○欠席の多い生徒や課題を持たされた生徒について保健室などと密に情報交換を行ってきた。 ○スクールカウンセラーの来校も昨年より増え、またスクールソーシャルワーカーとの連携も積極的に行うことができた。 ○特別支援の生徒に応じた指導計画を策定した。

	命を大切に する心を育 む指導	自他を愛する生徒の育 成	○「生命の大切さ」の指 導の徹底 ○悩み相談体制の充実	○道徳教育全体計画の策定 ○命を大切にする観点からの授 業実施 ○生徒・保護者への広報・啓発	B	○各分掌、教科系列で検討し、道徳教育全体計画 と年間指導計画の策定を行った。これらの計画 のもと、日々の授業等において、命を大切にす る観点を重視した指導を行っている。 ○今後はアンケートの結果分析などを行い、広報 と啓発にさらに努めて行きたい。
いじめ の防 止等	安心安全な 学校生活	いじめを生まない土壌 づくり	○いじめ防止等対策へ向 けた組織体制の確立 ○重大事態対応マニユア ルの作成と職員への周 知 ○保護者との連携強化 ○いじめの未然防止と早 期発見	○いじめ防止等対策委員会の定 期開催 ○年4回職員研修の実施 ○年2回の保護者集会で啓発 ○家庭訪問及び定期的な個人面 談週間の実施 ○いじめ実態把握調査の実施 (6月、12月にアンケート実施) ○情報の共有化 ○スクールカウンセラーによる 教育相談の活性化	B	○委員会は定期的実施。いじめの認知も積極的 に行い、早期対応に努めた。職員研修も4回実 施、現状と課題の共通理解を深めた。 ○新たに重大事態対応マニュアルを作成し、職員 への周知徹底を図った。 ○年度始めの総会と7月の保護者集会で、いじめ のない学校づくりへの協力を呼びかけた。 ○心のアンケート(6・12月)及び個人面談月間(6・ 9・12月)の実施より、生徒の現状把握といじめ の未然防止・早期発見に努めた。担任等による 家庭訪問やスクールカウンセラーへの相談も 積極的に取り組んだ。
保健 管理	健康教育	健康な体と豊かな心の 育成	○健康観察の充実 ○性教育及び薬物乱用防 止教育の強化 ○よりよい生活習慣の推 進(特に睡眠・食事)	○健康観察の結果を基に教育相 談等と連携し、対応について話 し合う(週1回実施。確実な記 録) ○薬物乱用防止講演会全体1回 実施 ○保健委員会で取り組み、文化祭 で発表する	A	○健康観察結果について週1回話し合いを行い、 継続して担任等を中心に生徒対応及び関係機 関との連携を行った。 ○薬物乱用防止講演会及び各年次LHR1時間の性 教育を実施した。生徒がより理解が深まるよ うに寸劇やワークシート等を取り入れた。次年度 も実態に合わせた内容の検討が必要である。 ○保健委員会で生活習慣に関する発表(アンケ ート実施、保健日より作成、CM作成放映、ティ ッシュ広告作成・配付等)を行った。
教育 環境 整備	安全管理	救急救命職員研修の充 実	○救急救命の実技講習計 画と実施	○緊急時のフローチャートに沿 ってシミュレーションを実施 ○エピペン実技講習の実施	A	○シミュレーション実施後、グループ毎の研修、 またエピペン実技講習も取り入れ、より具体的 かつ実践的に行うことができた。次年度は、学 校設置AEDの操作を取り入れる。
		施設設備の安全管理	○安全点検の月1回の確 実な実施 ○不備への確実な対応	○点検結果をまとめ、回覧し、必 要に応じ全職員へ周知する ○環境・保健部と事務部とが連携 して対応する	A	○毎月、ほぼ全職員が安全点検(掃除担当区域及 び部活動場所)を実施し、事後措置も概ね進ん だ。 ○次年度は系列関係の安全点検も充実させる。
		ハザードマップの作成	○美化委員会活動で確認	○校内危険箇所をマップ化して 報告	A	○本年度は現在までに3回実施済み。可能な箇所 は改善、修復も終わっている。

	学校版環境ISOの推進	環境美化の徹底と環境問題への意識高揚	<ul style="list-style-type: none"> ○5S活動の5ポイントアップ ○ゴミの減量化 プラスチック完全分別による可燃ゴミ重量昨年比5%減少 ○節電・節水の推進 昨年度比10%減少 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境教育講話の実施 ○プラスチックゴミ分別の徹底 ○校内美化コンクールの実施 ○「環境だより」発行 ○生徒美化委員会活動の活性化 ○掲示物等の活用 ○ゴミ持ち帰り活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ハザードマップ、掃除点検、分別など生徒が主体となる活動が活性化し、意識も上がっている。 ○直接の「美化」ではないが公共物の正しい使用に関する啓発にも取り組めた。 ○ゴミ減量は例年の取り組みに加えてゴミ持ち帰りの取り組みを展開したことで、行事の多い年度ながら、減量に成功している。
保護者・住民との連携	学校行事を通じた連携	学校行事等の開放と交流	○育友会との連携	○一人一役活動 (翔陽祭、長距離走大会、登校指導、校外補導等)	B	○バザーや豚汁会など生徒にも好評であるが、係によっては保護者にとって負担感が大きいものもあり、役割分担等に工夫が必要である。
			○同窓会との連携	○学校支援、登校指導、後輩への激励 ○周年行事への準備	A	○保護者と担任との連携を図るためにも、育友会活動の学校職員への周知徹底が必要である。
			○地域住民との連携	○学校に直接来校して協力いただいている。	A	○周年行事は無事、盛大に挙行することができ、現在の翔陽高校をアピールすることができた。
	○近隣の室小学校・大津支援学校との交流及び共同学習	○翔陽祭での物品販売 ○親子乗馬教室 ○地域花壇の管理	A	○学校に直接来校して協力いただいている。		
保護者との連携	学校理解の推進	○総会・夏休み前保護者会への出席率向上(60%達成)	○農作業体験学習 ○共同学習	A	○育友会での物品販売は盛況であった。	
			○事前に質問等を準備して、内容の充実を図る	C	○例年通り大津町内の小学生を中心に乗馬体験を行い好評であった。次年度も実施予定。	
					A	○学校周辺の環境整備に貢献できている。今後、夏場の除草作業をどのように行うか検討が必要である。
					A	○「からいもジャム」の度重なる試作を経て製品化し、ようやく販売まで実施した。
					A	○室小学校との交流学习で、野菜の栽培・収穫を行っている。生徒・児童ともに笑顔が絶えず、収穫物を喜んで持ち帰っていた。
					C	○総会の出席率は54%と目標には達しなかった。
					C	○日程や内容を工夫することで、参加者の増を目指したい。

4 学校関係者評価

学校関係者（本校では教育懇話会委員）の方々に、地域の行政・教育や企業の立場から、「学力向上」「進路指導」「生徒指導」「保護者・住民との連携」などについて多くの示唆に富む意見をいただくことができた。今年度は、本校にとって創立110周年の節目の年であり、学校関係者（強雨育懇話会委員）の方々には例年以上に御来校いただく機会に恵まれ、様々な視点から本校の教育活動を見ていただいたが、委員の方々からは「今年度の翔陽高校には例年にも増して勢いを感じる」との好印象を持っていただいていることが伝わってきた。

学校評価計画の評価項目や生徒、保護者、職員へのアンケート結果から見えてきた課題としては、「学力向上」や「学校・家庭・地域の3者の連携」、「職員の業務量や役割分担に係る負担軽減」等についての指摘をいただいた。学校としても緊急的な課題と捉え、次年度の学校関係者評価ではこのように改善できたという報告ができるように取り組んでいく。

全般的には年間を通した取組の成果を認めていただき、今後もさらに期待しているという評価をいただいた。

5 総合評価

- (1) 学校教育目標 : 学校を挙げて、キャリア教育を通して地域社会に貢献できる人材の育成を目指し、組織的に効果の上がる取組を実践することができた。
- (2) 重点目標 : 総合学科の特性を生かした教育活動を念頭に置き、すべての教育活動を通じて規範意識の向上やキャリア教育、人権尊重の精神の育成などに取り組むことができた。
- (3) 自己評価総括表 : 学校経営においては、今年度の最重点課題として「受検者の確保による定員割れ解消」を掲げ、総合学科の特色ある教育活動実践とマスメディアを駆使して情報発信及びPRの強化に努めたことにより、これまでにない受検者を確保できた。学力向上については、アクティブラーニング型授業への転換を重点的に取り組んだ。多くのICT機器を導入して職員研修を実施したことで、職員の意識も大きく変化してきた。進路指導、生徒指導、保護者・住民との連携についても、生徒の活躍する姿を見える化することに重点を置いて取り組み、効率よくその成果をPRすることができた。

6 次年度への課題・改善方策

- (1) 18歳からの選挙権付与に関して、学校においても国や県のガイドラインに従い、しっかりとした主権者教育に取り組んでいく。
- (2) 生徒の進路保障のためには学力向上は不可欠の条件である。生徒や保護者へのアンケート結果から、学習時間の確保や授業の充実が重点課題であることは間違いない。チャレンジタイムの充実や学校を挙げてのアクティブラーニング型授業実践への積極的取組を進める。
- (3) 職員の業務量や役割分担に係る負担感については、次年度に向けて校務分掌の在り方と役割分担等を変更することで解消を目指す。
- (4) 育友会活動では、総会への出席率改善が課題であるため、総会の在り方や内容等について大幅に見直し改善を図る。加えて効率のよい保護者との協力・連携をさらに強化していく。